

教科書の調査研究報告書

安芸高田市・山県採択地区合同調査員会

校 種	教 科	教科用図書目録に搭載された教科書総数	本報告書の総 ページ数
中学校	書写	5	4

調査研究の観点及び各教科書の特徴

<div style="text-align: center;">観点 発行者</div>	基礎・基本の定着	主体的に学習に取り組む工夫	内容の構成・配列・分量	内容の表現・表記	言語活動の充実
02 東書	<p>1 目標の示し方 ・「目標」と明記して、単元ごとに示している。</p> <p>2 執筆法等の示し方 ・巻頭に毛筆、硬筆それぞれの正しい姿勢、鉛筆の持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、墨のすり方、後片付け、構え方の写真、イラストを3ページにわたり示している。 ・筆の持ち方・構え方については、大筆が単鉤法、双鉤法、懸腕法、小筆が提腕法、枕腕法を、写真及びイラストで提示している。 ・チョークの持ち方も示されている。</p> <p>3 歴史と言語文化に関する記述 ・書写の歴史に関する資料等の内容ページ数、6ページ 伝統的な言語文化に関する内容及びページ数11ページ</p>	<p>1 単元構成 ・学習の冒頭に目標と自分の課題を考えさせ、課題を解決するための練習→学習したことの他の文字への汎化→自己評価→日常生活への活用→発展的な学習という学習の進め方となっている。</p> <p>2 自己評価 ・各教材ページ下部に「振り返ろう」として観点が示され、学習を振り返って、「できた」は「○」、「もう少し」は「△」と記入するように設定している。</p>	<p>1 単元、教材の配列 ・総ページ数 1 学年（44巻末折込） 2 学年（34巻末折込） 3 学年（18巻末折込） 巻末資料（35） ・毛筆教材数 1 学年（5） 2 学年（5） 3 学年（2） 補充教材（4） ・硬筆記入欄 1 学年（14） 2 学年（7） 3 学年（0）</p> <p>2 発展的な学習の扱い ・発展（2ページ） 巻末資料に掲載している。 高等学校の内容として唐の四大家の文字の比較を扱っている。</p>	<p>1 筆遣い等の示し方 ・薄墨と朱の二色で、筆遣いを示している。また、筆脈を青の点線で示し、形の特徴で注意すべき点を書いている。 ・行書の動きのパターンを4つに整理し、文字のどの部分に動きのパターンが生かせるかを書き込ませるようにしている。 ・教材の右側に動きのパターンと形の特徴を書く時のポイントとして示している。 ・楷書の基本点画について写真で筆遣いを示すとともに、送筆については「トン」「スー」「ピタッ」などの擬音を入れて示している。 ・写真で筆遣いを示している。</p>	<p>1 学習や日常生活との関連付け ・1 学年「目標を書こう」「年賀状を書こう」「書初めをしよう」「竹取物語」等 2 学年「好きな言葉を書こう」「書初めをしよう」「掲示物を書こう」「平家物語」等 3 学年「ノートを書くときに」「絵葉書や電子メールを出すときに」「ポスターを作るときに」「奥の細道」等 ・単元の終わりに「生活に広げよう」というページがあり、学習したことを日常の掲示物や記述の場面で活用させる。1 学年は3単元、2 学年は2単元、3 学年は1単元。</p>

<p>1 1 学図</p>	<p>1 目標の示し方 ・「目標」と明記せず，題材ごとに示している。</p> <p>2 執筆法等の示し方 ・巻頭に毛筆，硬筆それぞれの正しい姿勢，筆の持ち方及び腕の構え方，墨のすり方，筆の各部の名称と働きの写真を1ページで示している。</p> <p>・筆の持ち方・構え方については，大筆が単鉤法，双鉤法，懸腕法，小筆が提腕法，枕腕法を，写真で提示している。</p> <p>3 歴史と言語文化に関する記述 ・書写の歴史に関する資料等の内容ページ数，2ページ 伝統的な言語文化に関する内容及びページ数8ページ</p>	<p>1 単元構成 ・試し書きから自分の課題を見つけ練習し，練習の成果を確認するためにまとめ書きをし，毛筆で学習したことを硬筆に生かすような学習の進め方となっている。</p> <p>2 自己評価 ・1学年の各単元末に「振り返って…」として評価の観点を示している。(記入欄はなし)</p>	<p>1 単元，教材の配列 ・総ページ数 1 学年 (4 4) 2 学年 (3 2) 3 学年 (3 0) 巻末資料 (1 1)</p> <p>・毛筆教材数 1 学年 (8) 2 学年 (8) 3 学年 (4)</p> <p>・硬筆記入欄 1 学年 (1 2) 2 学年 (3) 3 学年 (0)</p> <p>2 発展的な学習の扱い ・発展 (7 ページ) 1 学年と3 学年に掲載している。 高等学校の内容として古典の書家，篆刻を扱っている。</p>	<p>1 筆遣い等の示し方 ・薄墨と朱の二色で，楷書と行書の基本点画を示している。</p> <p>・筆脈を赤の矢印で示している。</p> <p>・形の特徴を赤字で書いている。</p> <p>・書き順を数字で示している。</p>	<p>1 学習や日常生活との関連付け ・全学年とも「書初めをしよう」を設定している。</p> <p>・3 学年は，全単元を「書写を生活に生かそう」として，職場体験の礼状，年賀状，短冊，色紙，額等の作品作成を掲載している。</p>
<p>1 5 三省堂</p>	<p>1 目標の示し方 ・「目標」と明記して単元ごとに示している。</p> <p>2 執筆法等の示し方 ・巻頭に毛筆の正しい姿勢，鉛筆の持ち方，筆の持ち方，用具の置き方，墨のすり方，片付け方の写真，イラストを3ページにわたり示している。</p> <p>・筆の持ち方・構え方については，大筆が単鉤法，双鉤法，懸腕法，小筆が提腕法，枕腕法を，写真で提示している。</p> <p>3 歴史と言語文化に関する記述 ・書写の歴史に関する資料等の内容ページ数，6ページ</p>	<p>1 単元構成 ・「考えよう・話し合おう」として課題意識の確認→硬筆と毛筆で書いて確認→自己評価→学習のまとめとして硬筆教材での確認・定着→日常生活への活用という学習の進め方となっている。</p> <p>2 自己評価 ・題材ごとに「振り返ろう」として評価の観点を示している。(記述欄はなし。)</p>	<p>1 単元，教材の配列 ・総ページ数 1 学年 (4 0) 2 学年 (3 0) 3 学年 (1 2) 巻末資料 (2 9)</p> <p>・毛筆教材数 1 学年 (7) 2 学年 (4) 3 学年 (1)</p> <p>・硬筆記入欄 1 学年 (1 4) 2 学年 (8) 3 学年 (0)</p> <p>2 発展的な学習の扱い ・発展 (1 ページ) 2 学年に掲載している。 高等学校の内容として唐の書家，平安時代の</p>	<p>1 筆遣い等の示し方 ・楷書と行書を比較している。</p> <p>・行書の特徴を青の矢印，囲み，青字による書き込みで示している。また，筆脈を青の点線で示している。</p> <p>・薄墨と朱の2色で筆遣いを示している。</p> <p>・写真で筆遣いを示している。</p>	<p>1 学習や日常生活との関連付け ・1 学年「行事の目標を書こう」「本を紹介しよう」「書初め」等 2 学年「手紙を書こう」「書初め」「座右の銘を書こう」等 3 学年「卒業記念冊子をつくろう」「書初め」等 ・単元の終わりに「生活に生かそう」というページがあり，学習したことを日常の掲示物や記述の場面で活用させる。1 学年は2 単元，2 学年は2 単元，3 学年は1 単元。</p>

	伝統的な言語文化に関する内容及びページ数4ページ		日本の書家を扱っている。		
17 教出	<p>1 目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材ごとに「目標」と明記して示している。 <p>2 執筆法等の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に毛筆の正しい姿勢, 鉛筆, ボールペンの持ち方, 筆の持ち方, 用具の置き方, 墨のすり方, 後片付け, 構え方, 筆の各部分の名称の写真を3ページにわたり示している。 ・筆の持ち方・構え方については, 大筆が単鉤法, 双鉤法, 懸腕法, 小筆が提腕法, 枕腕法を, 写真で提示している。 <p>3 歴史と言語文化に関する記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書写の歴史に関する資料等の内容ページ数, 11ページ <p>伝統的な言語文化に関する内容及びページ数16ページ</p>	<p>1 単元構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬筆や毛筆による「試し書き」→試し書きと教科書の文字の比較による自己課題の発見→毛筆の別の課題または硬筆課題での定着→「まとめ書き」で学習の定着の確認→自己評価→日常生活への活用という学習の進め方となっている。 <p>2 自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材ごとに「振り返ろう」として観点が示され, 「できた」は「○」, 「もう少し」は「△」と記入するように設定している。 	<p>1 単元, 教材の配列</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数 <ul style="list-style-type: none"> 1 学年 (60) 2 学年 (40) 3 学年 (17) 巻末資料 (20) ・毛筆教材数 <ul style="list-style-type: none"> 1 学年 (6) 2 学年 (5) 3 学年 (3) 補充教材 (13) ・硬筆記入欄 <ul style="list-style-type: none"> 1 学年 (10) 2 学年 (10) 3 学年 (2) <p>2 発展的な学習の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展 (6ページ) <ul style="list-style-type: none"> 各学年と巻末に掲載している。 各学年で定められた学習内容の他にとして, 1 学年では行書と仮名の調和, 2・3 学年と巻末は古典を扱っている。 	<p>1 筆遣い等の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楷書と行書を比較している。 ・薄墨と朱の2色で筆遣いを示している。 ・書き順を数字で示している。 ・筆脈は黒の点線で示している。 ・筆順や形の特徴, 筆脈に加え, 中心線を示している。 ・写真で筆遣いを示している。 	<p>1 学習や日常生活との関連付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 学年「感謝の気持ちを伝えよう」「願いや祈りを伝えよう」「書初めを書く」等 2 学年「応援しよう」「書初めを書く」「決意を伝えよう」等 3 学年「三年間の学習の成果を生かそう (卒業カレンダー, メッセージカード)」「書初めを書く」等
38 光村	<p>1 目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材ごとに「目標」と明記して示している。 <p>2 執筆法等の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に毛筆の正しい姿勢, 鉛筆の持ち方, 筆の持ち方, 用具の置き方, 後片付け, 構え方の写真を2ページにわたり示している。 ・筆の持ち方・構え方については, 大筆が単鉤法, 双鉤法, 小筆が提腕法, 枕腕法を, 写真で提示している。 	<p>1 単元構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の確認→「学習の窓」による留意点の確認→練習と仕上げ→硬筆による学習の確認, 定着→自己評価→日常生活への活用という学習の進め方になっている。 <p>2 自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材ごとに「学習を振り返る」として評価の観点を示し, 「できた」は「○」, 「もう少し」は「△」と記入するように設定している。 	<p>1 単元, 教材の配列</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数 <ul style="list-style-type: none"> 1 学年 (28) 2 学年 (20) 3 学年 (13) 巻末資料 (50) ・毛筆教材数 <ul style="list-style-type: none"> 1 学年 (6) 2 学年 (5) 3 学年 (2) 補充教材 (8) ・硬筆記入欄 <ul style="list-style-type: none"> 1 学年 (6) 2 学年 (4) 3 学年 (0) 	<p>1 筆遣い等の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薄墨と朱の二色で筆遣いを示し, 行書の特徴を丸で囲み, 赤の太字で書いている。 ・楷書と行書を比較し, 筆遣いや筆圧の違いを示している。 ・筆脈を青の点線で示している。 ・写真で筆遣いを示している。 	<p>1 学習や日常生活との関連付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも「書初め」を設定している。 ・「資料編」で, 日常生活での活用を紹介している。教材として「手紙・封筒・葉書」「送り状・願書・のし袋」「原稿用紙」が示されている。 さらに, 情報活用, 図書館活用, 学校行事への活用の教材を掲載している。

	<p>3 歴史と言語文化に関する記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書写の歴史に関する資料等の内容ページ数, 4ページ <p>伝統的な言語文化に関する内容及びページ数10ページ</p>		<p>2 発展的な学習の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展(1ページ) <p>3学年に掲載している。</p> <p>高等学校の内容として中国の書家, 平安時代の日本の書家を扱っている。</p>		
--	--	--	---	--	--